

人にやさしく、 活力あるまち

岐阜県多治見市長

古川 雅典



1.はじめに

多治見市は、岐阜県の南東部、愛知県との県境に位置し、面積は91.24km²です。中部圏の中枢都市である名古屋市からは、JR中央本線の快速電車で約30分の距離にあります。JR中央本線のほかJR太多線、中央自動車道、国道19号、国道248号などによって周辺都市と結ばれています。2007年8月16日14時20分には日本国内の最高気温40.9℃を日本で最初に観測し、また、2006年には37℃以上を記録した日数が日本で最多ということもあり、「日本一アツい町」として観光誘致活動を行っています。



【多治見市風景】

豊かな自然と水源に恵まれた多治見市は、はるか古墳時代からやきもの文化が栄えるまちです。この地で作られるやきものは美濃焼と呼ばれ、山間部に軒を連ねる窯元では陶芸家や職人たちが手仕事の器を作り続けています。また、中心部にある本町オリベストリートには陶器商の商家や蔵を改築したショップが立ち並び、美濃焼ショッピングを楽しむことができます。



【本町オリベストリート】

昭和40年頃から始まった丘陵地での宅地開発の進行に伴い、名古屋市方面へ通勤・通学する人たちが多く移り住むようになりました。このため、「美濃焼のまち」と「住宅都市」として発展し、新しい一面を持ったまちになりつつあります。

2.多治見市都市計画 マスタープラン

平成7年度に策定された全体構想を見直すとともに、市民参加による「まちづくり研究会」での議論を踏まえて地区別構想をとりまとめ、平成13年3月に「第1次多治見市都市計画マスタープラン」を決定しました。

平成22年を目標としてきた第1次計画の計画期間が満了したことと市町合併により都市計画の統合が必要になったこと、さらには平成20年8月から新しく総合計画がスタートしたことなど、多治見市を取りまく社会情勢の変化をふまえ、「第2次多治見市都市計画マスタープラン」を平成22年11月に決定しました。第1次

の計画ではコンパクトなまちづくりをめざしており、第2次の計画ではこれを踏襲していくことを前提に当市の第6次総合計画の目標である「もっと！人が元気！まちが元気！多治見」の実現と環境に配慮したまちづくりをめざしています。

そのために、特に企業誘致や地場産業の育成を柱とした産業構造の構築に向けた都市計画と、「日本一暑いまち多治見」をキーワードとした高気温対策などの都市計画の実現に向けて取り組んでいくことを柱にしています。

産業構造の構築については、工場等の立地促進や起業に有利な土地利用を図るとともに、陶磁器の持つ文化的な雰囲気を活かしたビジターズ産業の育成に目を向けたまちづくりを進めています。また、公共交通の充実や人優先の道づくりなどと合わせて厚いおもてなしを提供できるまちづくりをめざしています。

環境配慮については、特に自動車から排出さ



【山吹テクノパーク】



【バスペイ、遊歩道】

れる温室効果ガスを抑制するため、渋滞緩和のために必要な最低限度の道路整備や、マイカーに頼る生活スタイルから公共交通を利用する生活スタイルへの転換をめざしています。また、中心市街地における緑のボリュームアップと新たな水辺空間の創出にも取り組んでいます。



【多治見駅北広場イメージ】

3. 多治見駅周辺都市整備 将来構想

コンパクトシティの顔づくり

「もっと！人が元気！まちが元気！多治見」の実現のためには、多治見駅を中心に、まちなかに賑わいを取り戻す必要があります。

前述のとおり、多治見市は昭和40年代頃から名古屋市のベッドタウンとして人口が増加し、栄えてきましたが、昨今、東京や大阪の近郊と同じく、名古屋市への都心回帰の流れが起きています。少子化・高齢化に加え、都心回帰による人口減少が進むと自治体の存続が困難になるとも言われています。都心回帰の動きを人口減少につなげることなく、多治見駅周辺の居住にとどめ、コンパクトシティにつなげていくことが必要です。

駅の北側は、平成12年から土地区画整理事業を施行し順調に進捗しています。後は仕上げをまつばかりとなっています。駅の南側についても地権者の方々をはじめとして、地域の皆様にまちづくりの機運が高まっており、具体的な取組みに着手していきます。

また、多治見駅は、既に橋上駅舎となっており、駅の南北を一体として賑わいを作り出していく条件は整っています。



【多治見駅北地区画整理事業地区】



【橋上駅舎写真】

当市の中央部市街地では、市民病院の更新、健康づくり・次世代育成関連窓口を集約した駅北庁舎の整備などにより、居住に必要な各種のサービスを提供するとともに、コミュニティバスにより、快適な移動手段の確保に努めています。

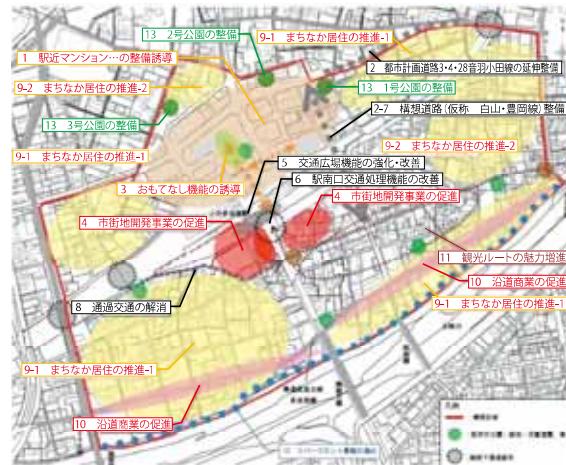


【駅北庁舎】

対象区域

本構想で定める都市整備の対象区域（約66.6ha）は、次の図のとおりです。

区域の設定にあたっては、多治見駅南北の一方的な都市整備を推進するため、駅北と駅南の両方を含むものとしました。



〔将来構想区域図〕

駅北については、多治見駅北土地区画事業の区域を北端とし、西側については区域として一体性を考慮し国道248号までとしています。駅南については、再開発の機運が高まっている区域を中心とし、土岐川を南端としました。東側については、川南のオリベストリートへの動線としても期待されるながせ商店街を含め、主要地方道名古屋多治見線までとしています。

都市整備の方針

多治見駅周辺においては、コンパクトシティの形成や広域的役割を踏まえ、定住人口と交流人口の増加に向け、都市整備の取組みを進めていく必要があります。

このため、機能面では、駅南北を一体に捉え、おもてなしや生活に必要な機能の連携・確保を図るとともに、多治見駅や各種機能へのアクセス改善を図る必要があります。

また、土地利用のあり方については、高度利用への転換を推進するとともに、快適に過ごせる空間づくりや、安全・安心の確保に向けた取組みを推進する必要があります。

これらのことから、多治見駅周辺の現状と課題を踏まえ、多治見駅周辺における都市整備の方針を次のように整理します。

- (1)多治見駅南北連絡線（自由通路）を中心に駅南北を一体に捉え、機能の連携を図るとともに、コンパクトシティの顔として定住人口と交流人口の増加に向けたにぎわいの形成を推進する。
- (2)定住人口の増加を目指し、中高層マンションと既存の低層住宅の共存を図るとともに、まちなかでの生活利便性を高め、良好な居住環境の確保に努める。
- (3)中心市街地における夏の暑さ対策を一層進め、生活者・来訪者が快適に過ごせる空間づくりを目指します。また、公園等のオープンスペースや民有地を活用した水と緑のネットワーク化を推進する。
- (4)中心市街地における安全な歩行者・自転車空間の確保に向け、自動車交通の削減を図るなど、誰もが安全で快適に移動できる交通環境の形成に努め、歩いて楽しい歩行者ネットワークを構築する。
- (5)賑わい、景観、防災等、まちづくりの視点に基づき、駐車場の適正配置を誘導する。

4. 多治見市の 土地区画整理事業

当市における土地区画整理事業は、これまでに旧土地計画法によるものを含めて12箇所172.3haの土地区画整理事業が施行済み、または施行中となっています。もっとも古い土地区画整理事業は昭和14年にさかのぼります。現在施行中の事業では、市施行のもので多治見駅北土地区画整理事業、組合施行のもので多治見住吉土地区画整理事業と笠原町神戸・栄土地区画整理事業を行っています。

多治見駅北土地区画整理事業

当地区はJR中央本線多治見駅の北側に隣接し、北方約500mに国道19号、西方約300mに

国道248号、南方約500mに土岐川が流れています。施行地区的面積は約11.8haで、商業地域として商業・業務機能や駅前の利便性を活かした土地利用を図る地区です。事業の施行は平成12年11月10日から開始し、平成31年3月31日に終える予定です。(平成27年5月25日時点)

区画整理事業前は、幹線道路から駅へのアクセスの利便性に欠ける点や地区内生活道路への通過交通の流入、土地利用の混在等がみられました。

そのため、本事業において道路や駅前広場等の公共施設の整備、さらには多治見市の「顔」としての拠点づくりと宅地の再整備を行っています。駅前地区の特性を活かし、居住・商業・業務機能が調和された安全で住み良いまちづくりをめざしていきます。

多治見都市計画事業 多治見駅北土地区画整理事業
区域と仮換地の重ね図



【多治見駅北土地区画整理事業施行地区】

多治見住吉土地区画整理事業

当地区は、JR中央本線多治見駅から北1.5kmの距離にあり、中央自動車道と既成市街地に挟まれた面積約18.8haの区域です。

無秩序な市街地の形成を防止し、良好な都市環境を形成するとともに、環境負荷の軽減、自然との共生及びアメニティの創出を図った質の高い住環境を有する健全な市街地形成をめざしています。

計画戸数は約450戸です。

笠原町神戸・栄土地区画整理事業

当地区は、JR中央本線多治見駅から南東約6kmの距離にあり、多治見市笠原町の中心部に位置しています。北側は主要地方道豊田多治見

線と並行して流れる笠原川を境界とし、南部は公共施設が集積しています。

平成18年1月23日に笠原町と多治見市が合併し、新多治見市となった後も公共施設はそのまま多治見市に引き継がれました。笠原町役場は多治見市笠原庁舎として利用されていましたが、平成26年にその役目を終え解体されました。笠原庁舎の跡地を利用して、平成28年に「多治見市モザイクタイルミュージアム」がオープンします。笠原町の主産業である「タイル」を活かした観光・産業振興両面の活性化を図る拠点として利用されます。

平成25年には主要地方道豊田多治見線と公共施設をつなぐ都市計画道路笠原南北線が開通しました。これからも良好な市街地の形成をめざしていきます。



【モザイクタイルミュージアムイメージパース】



【笠原南北線開通式】



【設計した建築史家・
藤森照信氏と市民参加によるワークショップ】



【工事中の現場】